

広島市立新安佐市民病院(仮称)実施設計の概要



1 新病院の概要

名称	広島市立新安佐市民病院(仮称)		構造	病院棟	: 鉄骨造 (免震構造)
所在地	広島市安佐北区亀山南一丁目			エネルギーセンター棟	: 鉄筋コンクリート造 (耐震構造)
病床数	434 床		規模	横断橋	: 鉄骨造 (耐震構造)
敷地面積	敷地全体 36,760 m ²			地上 5 階、塔屋 2 階、地下 1 階	
建築面積	14,861 m ²		駐車台数	924台 (敷地全体)	
延床面積	51,660 m ² (地下駐車場 9,910 m ² 含む)				

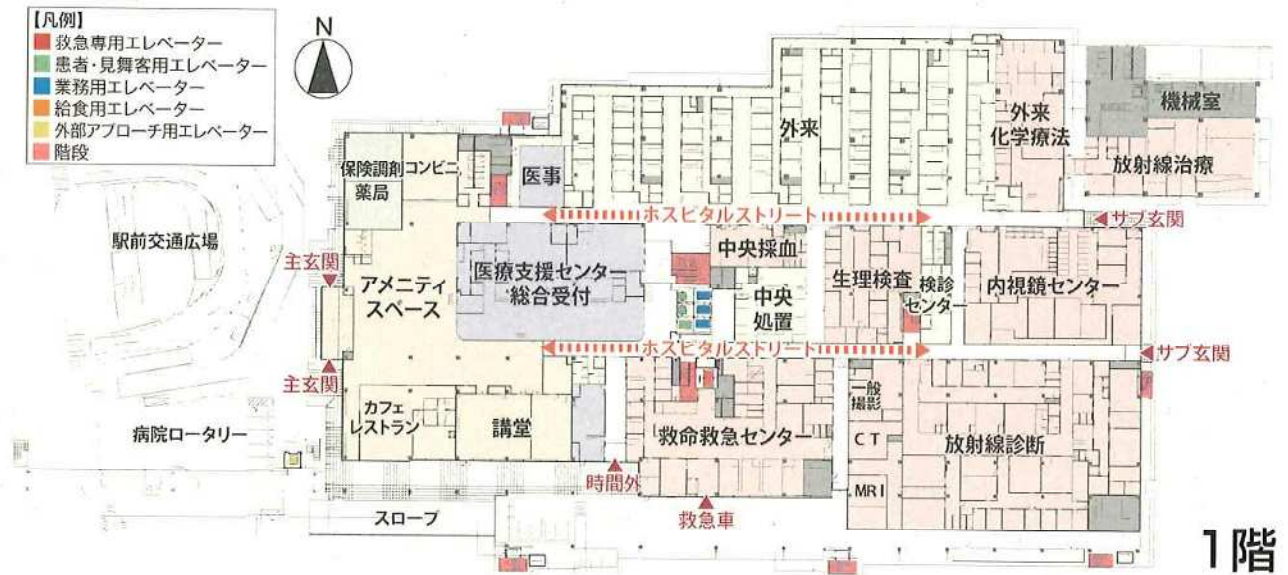
2 配置計画



- JRあき亀山駅前交通広場を中心に、東側敷地に病院棟・エネルギーセンター棟、西側敷地に付属棟・院内保育所・平面駐車場を配置します。東側敷地と西側敷地は屋根付き横断橋で連結し、来院者やスタッフの利便性を高めます。
- 東側敷地の病院棟の地下1階に患者用の駐車場を262台、西側敷地の平面駐車場を536台、その他業務用等の駐車場を合わせて合計で924台の駐車場を確保します。
- JRあき亀山駅から病院までは歩行者通路に屋根を設置し、雨に濡れることなく来院することができます。
- JR利用者のロータリーと病院ロータリーは完全分離するとともに、病院へのアプローチは、自家用車は西南側から、救急車は南側中央部(太田川面)から、サービス車は東南側からとし、自動車動線を明確に分離し交通の錯そうを回避しています。

3 平面計画

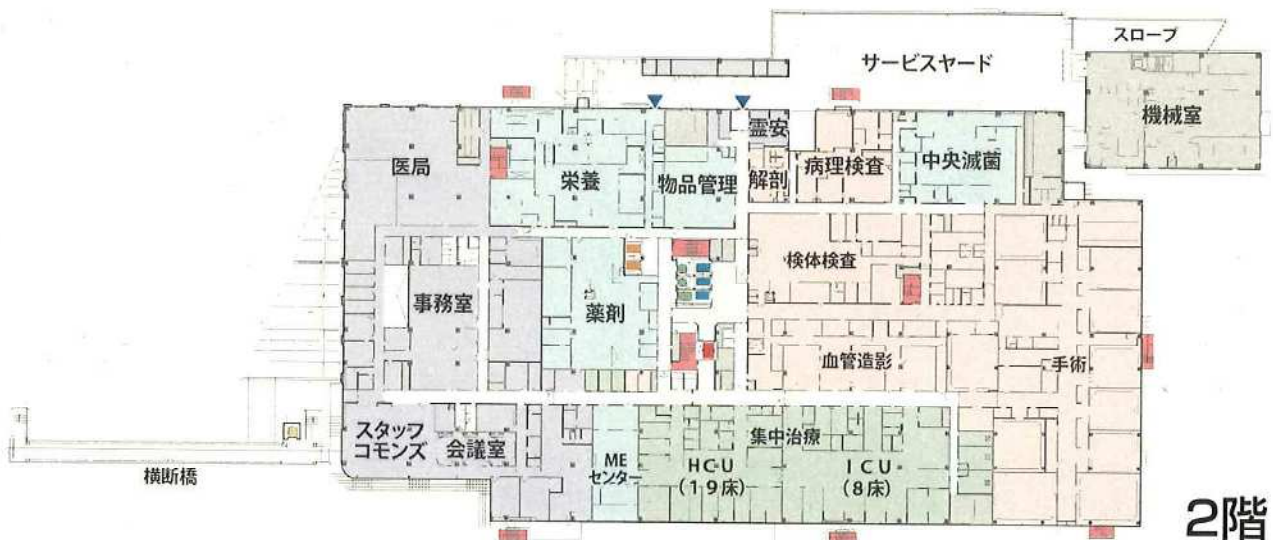
1階：アメニティスペース、外来・救急医療機能



1階

- 病院の中心部分に総合受付を配置し、北側にセンター化を図るブロック受付、フリーアドレス診療室の設置など外来部門を集約配置しています。外来部門はスタッフ専用通路を確保し、患者との動線を分離しています。
- 東西方向の2本のホスピタルストリートを軸として、内視鏡センターや放射線診断等の関連する検査部門をわかりやすく配置しています。
- 南側に救急部門（救命救急センターを新設）を配置し、手術室（2階）につながる救急専用エレベーターを整備します。
- 外来化学療法は放射線治療と隣接させるとともに、通院者の負担を減らすため、平面駐車場から近いサブ玄関を設けます。
- 西側の正面玄関を入ったアメニティスペースには地域に開放できる、レストラン・カフェ、コンビニや保険調剤薬局を配置します。また、災害時におけるトリアージスペースとして活用します。

2階：手術・集中治療部門、供給部門、医局

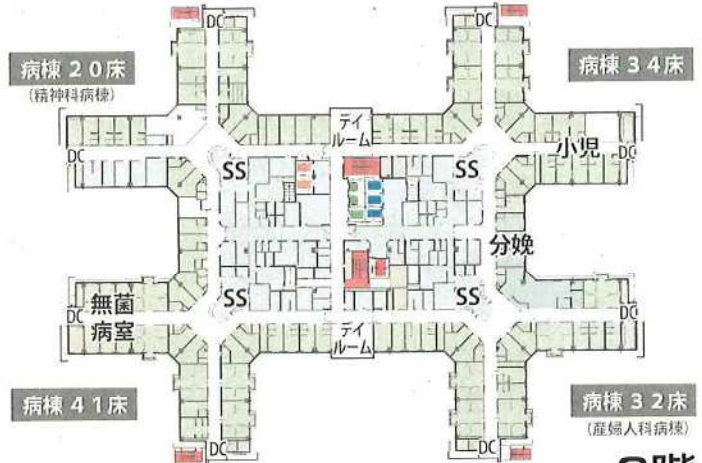


2階

- 病院の中心部分にエレベーターを設置し、各部門へのスタッフ動線を短縮化させています
- 高度な医療の提供を行うため血管造影室とハイブリッド手術、手術・集中治療部門を隣接させています。手術室数を増加し、全ての手術室を手術支援ロボット対応としています。
- 北側のJRに面して広いサービスヤードを設け、物品管理（SPD）や薬剤部門に円滑な物流を図ります。
- 眺めの良い西南側には、スタッフ用の休憩や食堂となる「スタッフ commons」を配置します。

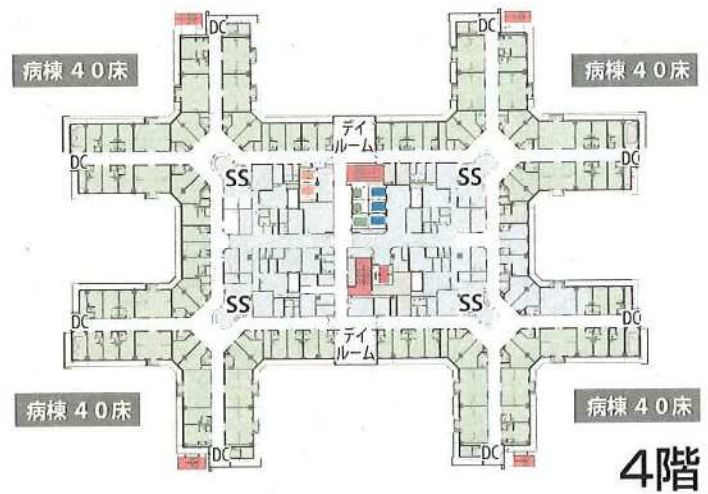
3階：病棟

- 一般病棟2看護と産婦人科病棟、精神科病棟を配置し、セキュリティと患者プライバシーに配慮します。
- 産婦人科病棟内に分娩室を設置し、妊婦の負担を最小限に抑えるとともに、緊急時の患者搬送動線を確保します。
- 無菌病室を4室整備し、専用のデイコーナーを設けます。
- 小児病床エリアにプレイルームと院内学級を整備します。
- 精神科病棟には保護室と隔離室を整備します。



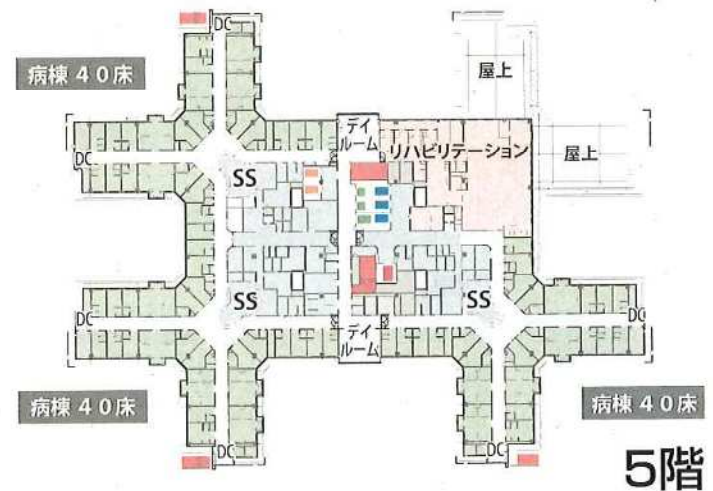
4階：病棟

- 一般病棟4看護を配置します。
- デイルームやデイコーナーを眺望の良い廊下の端に設け、明るい療養環境とします。
- スタッフゾーンを病棟の中心に配置し、病棟間の緊密な連携を推進するとともに、患者とスタッフ動線を分離します。
- スタッフステーションはオープンカウンターとし、病棟の端部まで見通しやすい計画とします。
- スタッフステーションに面して重症個室やリカバリー室を配置し、優しい見守りに配慮した安心の療養環境とします。



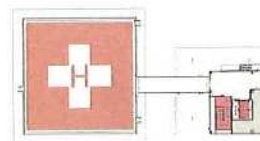
5階：病棟、リハビリテーション

- リハビリテーション部門とリハビリ対象疾患に関連する病棟3看護を配置します。
- 屋上を利用した屋外リハに対応します。



屋上階：ヘリポート

- ドクターヘリ対応のヘリポートを屋上階に整備します。
- ヘリポートと1階救命救急センターを直結する救急専用エレベーターを設置し、迅速な患者搬送が行える計画とします。



【凡例】
SS:スタッフステーション
DC:デイコーナー

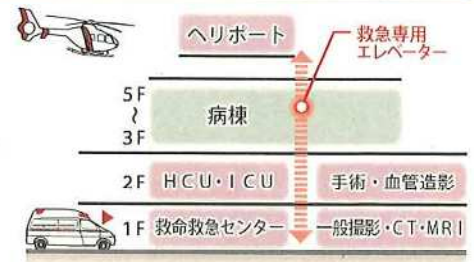
PH2階

4 新病院の特徴

高度・急性期の“いざ”の医療を提供する病院づくり

● 救急医療機能の拡充

- 救命救急センターを新設し、救急医療機能を拡充整備（救急初療室6床、観察室10床、HCU19床）します。
- 屋上ヘリポートと救命救急センターを直結する救急専用エレベーターを設置します。
- 救命救急センターに隣接して、救急用の一般撮影室・CT室・MRI室を配置します。



救急専用エレベーターによる迅速化

● 手術室の充実

- 手術室を現病院の9室から11室に増設します。
- 低侵襲で高度な治療が可能なハイブリッド手術室と血管造影室3室を手術部門と一体的に整備します。
- 手術室の空調は輻射式空調を採用し、患者や医師、医療スタッフにとって快適な手術室とします。

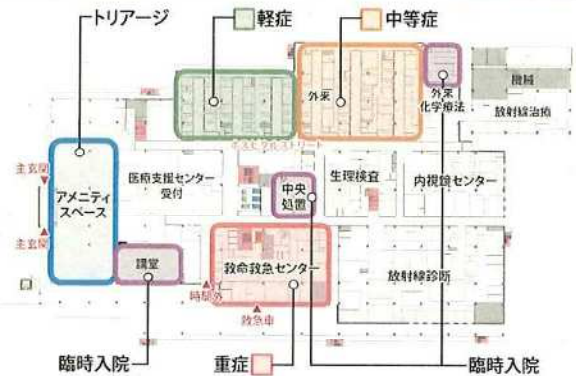


ハイブリッド手術室イメージ

災害時の“いざ”に対応できる病院づくり

● 多数の被災傷病者等への対応

- 4,000人程度の被災傷病者の受入れ（通常時の5倍）と、災害医療を1階で完結させるためのスペースを確保します。
- アメニティスペースや外来待合、講堂などには、医療ガスやコンセントを設置し、トリアージや診察・応急処置・臨時入院に対応します。
- 災害備蓄倉庫を各階に設置し、簡易ベッドや飲料水、食料等を3日分備蓄します。



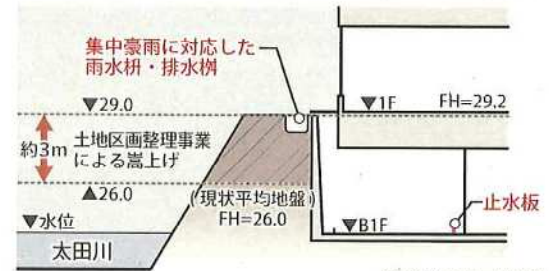
災害時のトリアージ

● 免震構造の採用

- 大規模災害発生時にも病院機能を維持するため、病院棟は免震構造を採用します。

● 万全の浸水対策

- 太田川の洪水対策として、敷地地盤を約3m嵩上げするとともに、近年のゲリラ豪雨に対応した雨樋や雨水排水設備とします。
- 地下駐車場への万一の浸水に備え、地下エレベーターホールに止水板が設置できます。



段階的な浸水対策

● ライフラインの確保

電力	● 2回線受電とし、72時間以上運転可能な非常用発電設備を設置します。
給水	● 3日分の受水槽容量を確保するとともに、井戸の利用を行います。
排水	● 地下免震層を利用して災害時緊急排水槽（10日分の貯留）を設置します。 ● 敷地南東の屋外駐車場エリアにマンホールトイレを設置します。



免震構造の採用

へき地医療拠点としての病院づくり

● ドクターヘリ対応のヘリポート

- 屋上にドクターヘリ対応のヘリポートを整備し、広島県北西部地域の救急医療体制の強化、災害時の救護医療活動を充実します。

● 病院棟と付属棟をつなぐ横断橋

- 医療スタッフが研修を行うスキルラボ、図書室、更衣室、研修医の宿泊施設などの機能を持った付属棟を整備します。
- 付属棟と病院棟2階を連結する横断橋を整備し、患者・家族やスタッフの安全性・利便性を確保します。

安全で安心な病院づくり

● 個室率50%を確保

- 病室は個室と4床室で構成し、療養環境の充実や患者ニーズに対応するため、個室率50%を確保します。
- 病室は足元までの大きな窓とし、自然採光や眺望を活かした病室とします。
- ベッド空間を十分に確保し、緊急処置やベッドサイドリハに対応します。
- 4床室は、各ベッドサイドに排気口を設け、臭いが拡散しないようにします。

● 将来の個室化への対応

- 4床室は、将来の個室化に備え、上下階に影響を及ぼすことなく、改修工事が行える計画とします。

● 快適な化学療法室

- 化学療法室は治療中の患者に対する快適性を高めるため、気流を抑えた天井輻射式空調を採用します。

● アメニティスペース

- JRあき亀山駅や駅前交通広場等のアプローチゾーンに面して、レストランやコンビニ、薬局等を集約したアメニティスペースを配置し、地域住民や来院者、スタッフの利用を促進します。
- 外来待ち時間を快適に過ごすとともに、災害時はトリアージスペースとして活用するため、ゆとりを持たせたスペースを確保します。
- デジタルサイネージを設置し、施設利用等の情報表示を行います。



4床室イメージ



アメニティスペースイメージ

環境に優しい病院づくり(エコホスピタル)

● 自然エネルギーの活用

- 太陽光発電パネルを屋上に設置します。
- 太陽光集光装置を導入し、光ファイバーにてエレベーターホールに太陽光を導きます。
- 雨水を貯留し、屋上庭園の植栽への散水に利用します。

● 熱負荷の低減

- 複層ガラスを採用し、室内への熱負荷を低減します。
- 病棟部にはバルコニーを設け、夏季は室内への日射を遮蔽し、冬季は日射を有効に室内まで取り込みます。



バルコニーによる日射遮蔽

医療スタッフが働きやすい病院づくり

● 多職種間の連携・交流を促進する「スタッフ commons」

- 職員レストランやスタッフの休憩・交流を目的とした「スタッフ commons」を眺望の良い太田川に面して配置します。
- 移動間仕切壁を開放し、隣り合う会議室と一体的に利用することも可能です。

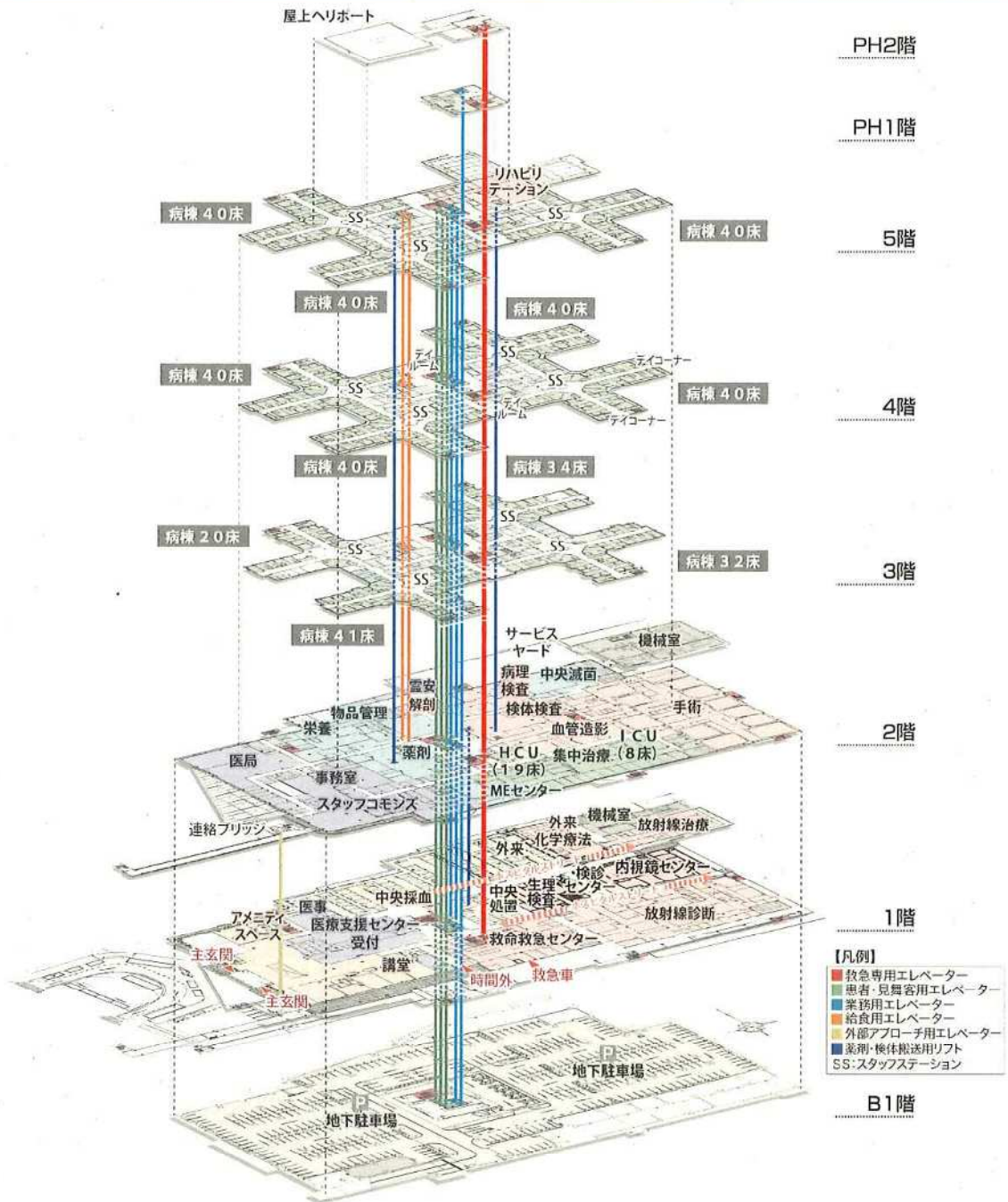
● 職場環境の充実

- 会議室やカンファレンス室を拡充します。
- 女性用パウダールームや職員専用トイレを確保します。
- 患者・来院者とスタッフとの動線を分離します。



スタッフ commons イメージ

5 断面構成図



- 建物の中央に、患者・見舞客用3台、救急用1台、業務用3台、給食用2台の用途別エレベーターを配置し、来院者と業務用（ベッド・物品・給食等の搬送）の縦動線を分離します。
- 検体・薬剤・輸液等の専用搬送設備（リフト、気送管設備等）を設置し、搬送業務の負担軽減と効率化を図ります。
- 2階医局・管理部門と1階外来部門をつなぐスタッフ専用階段を設置します。

6 今後のスケジュール

- 2019年度から工事着手し、2022年度春の開院を目標とします。

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
実施設計	建設工事		開院準備	開院